23

水戸日建工科専門学校 2年

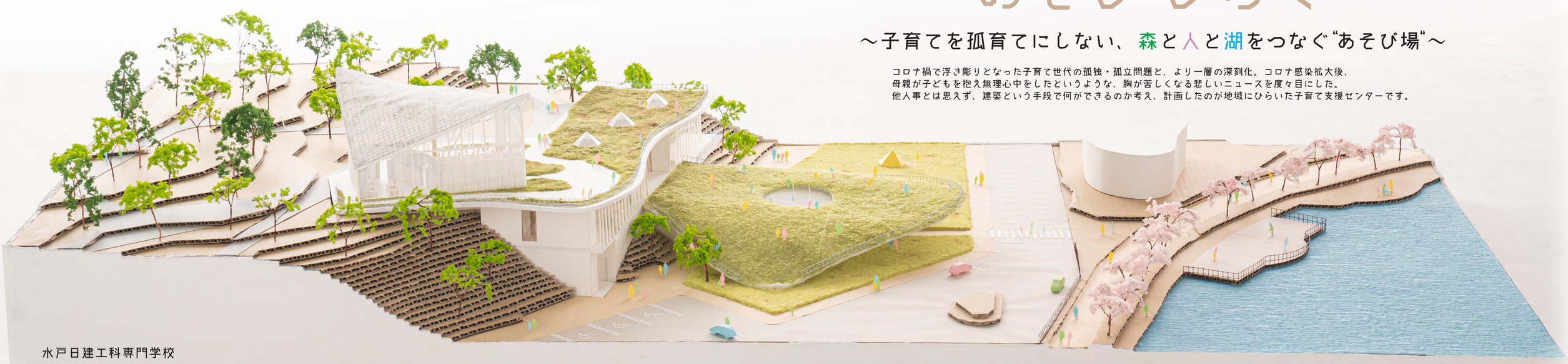
藤田　崇文

「あそび　ひらく」

あそび ひらく

～子育てを孤育てにしない、森と人と湖をつなぐ“あそび場”～

コロナ禍で浮き彫りとなった子育て世代の孤独・孤立問題と、より一層の深刻化。コロナ感染拡大後、
母親が子どもを抱え無理心中をしたというような、胸が苦しくなる悲しいニュースを度々目にした。
他人事とは思えず、建築という手段で何ができるのか考え、計画したのが地域にひらいた子育て支援センターです。



水戸日建工科専門学校
建築設計科　藤田 崇文

少年の森側から一望できる千波湖の眺望

窓際にあるコタツスペース

中間領域のドーム空間

ネットで飛び跳ね遊ぶ子どもたち

眺めのいい休憩スペースと展望台

室内のプレイルームとバルコニー

01. 提案理由

コロナ禍で浮き彫りとなった子育て世代の孤独・孤立問題と深刻化

↓

自殺者の増加（特に女性の割合が多い）

社会的背景
- 晩婚化
- 核家族化
- 地域の関わりの希薄化

→ **一人で抱え込んでしまう** ←

負担の増加
- 育児
- 介護
- 経済的不安定

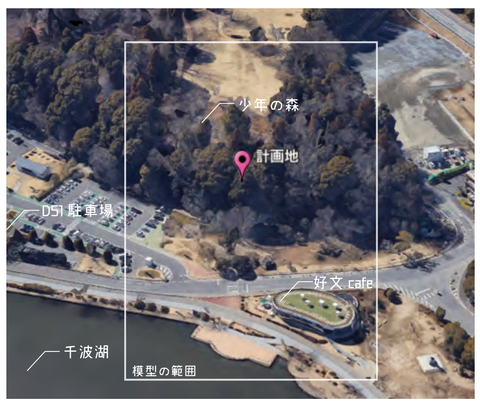
↓

子どもたちへの悪影響に繋がる

- 虐待
- ネグレクト（育児放棄）
- ヤングケアラー（若年者が育児や介護を行う）

子育て支援が必要な方へ寄り添える環境の必要性
地域にひらいた子育て支援センターを提案

02. 計画地



計画地は茨城県水戸市にある千波湖と少年の森の間にある斜面。

03. 周辺環境

計画地周辺は、遊具が充実し自然環境も豊かで普段から多くの子育て世代が集まる場所だが、千波湖と少年の森をつなぐ道は、木が生い茂って暗く高低差約10mの急な階段になっている。
そのため行き来がしにくい状況。

千波湖と少年の森をつなぐ安全な動線を再構築

↓

多くの人が訪れやすい新たな場を生み出す

子育て支援が必要な方へ寄り添える環境

04. 建築という手段を通して行いたいこと

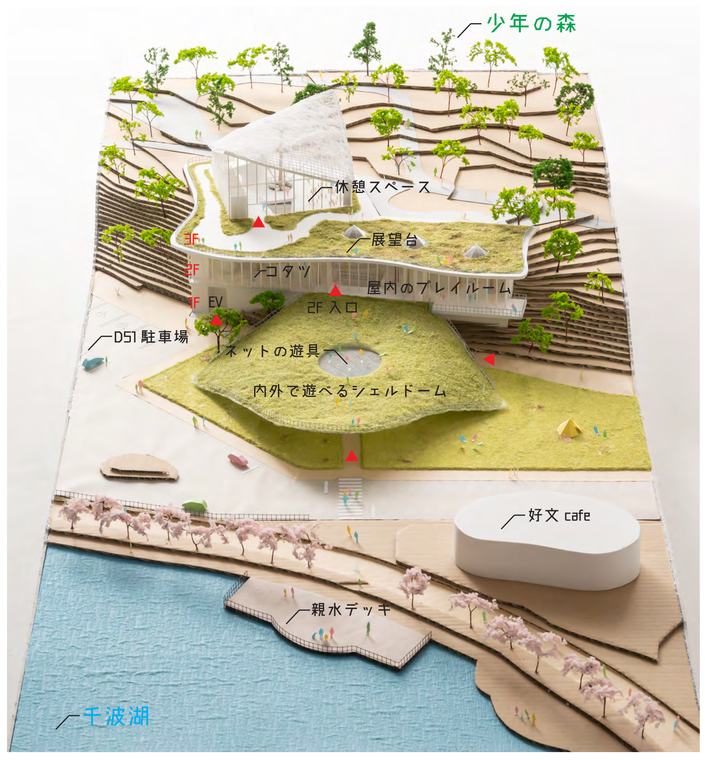
子育てをする多くの家族のために

支援の環境を地域にひらく

気持ちを切り替えるひと時をひらく

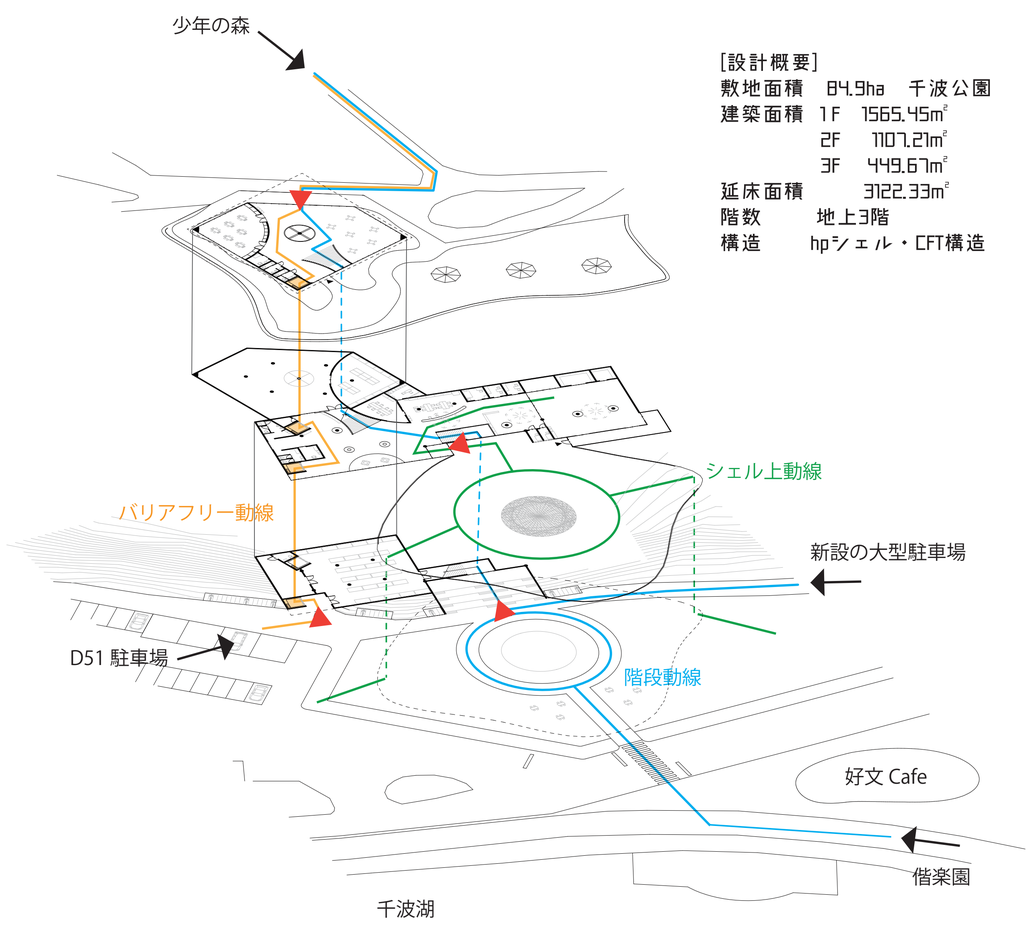
子育てを抱え込まない、家族の穏やかな未来をひらく

05. 全体イメージ



日々、子どもに翻弄され孤立しがちな子育ての中でも、家から一歩出て訪れたくなるようなみんなで集いたくなるような、そして子どもたちが楽しくあそべる場を提案。

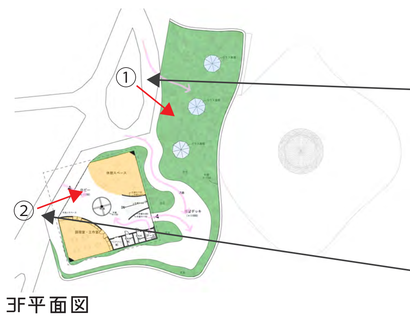
06. 動線計画



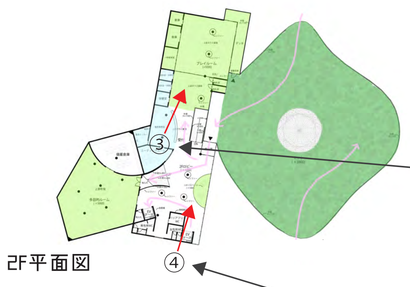
[設計概要]
敷地面積　84.9ha　千波公園
建築面積　1F　1565.45m²
　　2F　1107.21m²
　　3F　449.67m²
延床面積　3122.33m²
階数　地上3階
構造　hpシェル・CFT構造

千波湖越しに水戸の街並みを一望できる斜面を舞台に、施設内部に多くの人が行き交う動線を計画。これまでなかったエレベーターも設置し、足の不自由な方や、ベビーカーなどでも安心して移動することができる。

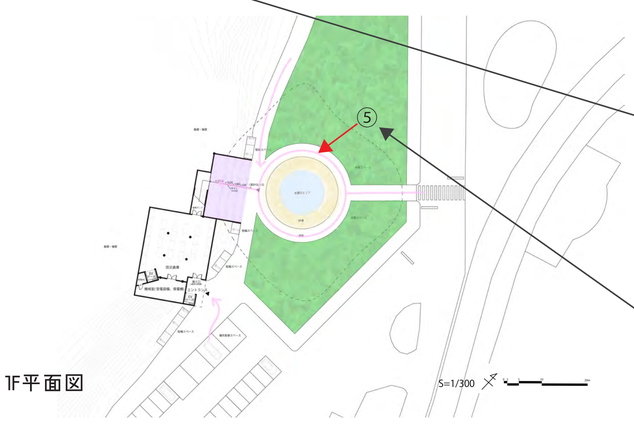
07. 1F～3F平面図



3F平面図



2F平面図



1F平面図

① 水戸の街並みを一望できる展望台

忙しい日々の中でホッと一息つくことができる、見晴らしのいい展望スペース。千波湖に来ると登って見たくなるそんな場所。

② 休憩スペース

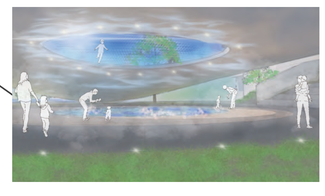
以前から多くのニーズがある休憩スペース。ここでは施設の利用者以外も自由に使うことができ、ゆったりとした一時を過ごすことができる。

③ プレイルーム

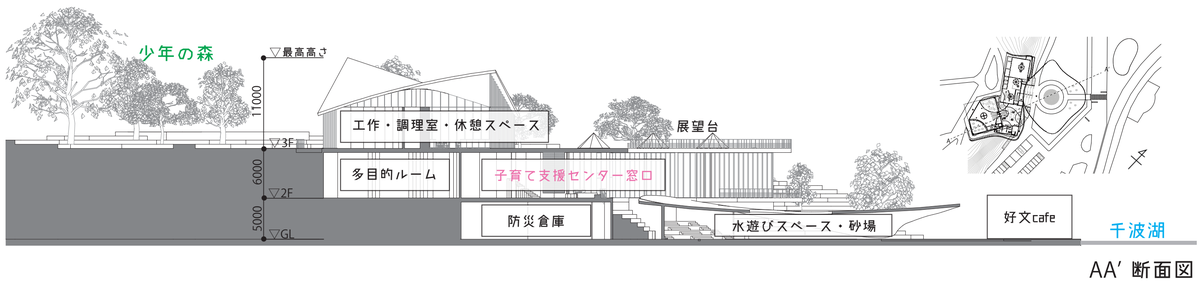
一時預かりや、親子で過ごせる屋内のプレイルーム。天井の明かり取りからは明るい光が差し込み室内を照らします。

④ コタツスペース

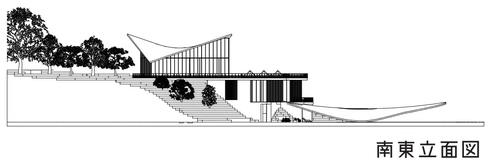
窓際の小上がりの上にあるコタツスペース。普段は落下防止の柵で目隠しされ、外の景色を眺めながら落ち着いて過ごせる場所。

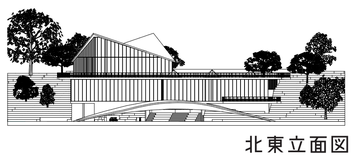

⑤ ドーム内側のプレイエリア

半屋内の空間では水遊びができ、上を見上げるとネットが張られ子どもたちが飛び跳ねてあそび多くの子どもたちが夢中になるプレイエリア。



AA′ 断面図


南東立面図


北東立面図

南西立面図